

| | | | | | | |
|-------|-----|--------------|-----|-------|-------|-------|
| 施策No. | 政策名 | 活力ある産業のまちづくり | 主管課 | 商工観光課 | 主管課長名 | 鈴木 謙一 |
| 4-2 | 施策名 | 商工業の振興 | 関係課 | 地域開発課 | | |

1. 施策の目的と成果把握

| 目的 | 施策の対象 | 対象指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | |
|----------------|--|----------------|-----|-----|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 市内の事業者 経営が安定し、経済活動が活発になっている。 | ①市内の従業者数 | 見込値 | 人 | | 16,400 | 16,400 | 16,400 | 16,400 | 16,400 |
| 実績値 | | | | | | 16,437 | 16,437 | | | |
| 見込値 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 実績値 | | | | |
| 施策の意図 | | 成果指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | |
| | | ①事業者数 | 件 | | 目標値 | 1,950 | 1,930 | 1,900 | 1,870 | 1,850 |
| | | | | | 実績値 | 2,184 | 2,184 | | | |
| | | ②ビジネスマッチング参加数 | 件 | | 目標値 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | | | | | 実績値 | 4 | 7 | | | |
| | | ③新商品開発数(5カ年累計) | 件 | | 目標値 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 実績値 | | | | 2 | 5 | | | | |
| | ④自治金融・振興金融・小規模事業者経営改善資金融資(マル経融資)件数 | 件 | | 目標値 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| | | | | 実績値 | 88 | 91 | | | | |
| | ⑤新規立地企業数(5カ年累計) | 件 | | 目標値 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | | | 実績値 | 1 | 0 | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①事業者数は市内の経済状況を把握する。 ②③ビジネスマッチング参加数と新商品開発数は経済活動を把握する。 ④自治金融・振興金融・小規模事業者経営改善資金融資(マル経融資)件数は経営の安定性を把握する。 ⑤新規立地企業数(5カ年累計)は働く場の確保となる。 | | | | | | | | | |
| 成果指標の把握方法と算定式等 | ①事業者数は、統計調査より抽出 ②ビジネスマッチング参加数は立地企業支援事業補助金から把握 ③新商品開発数は相談件数から把握 ④自治金融・振興金融・小規模事業者経営改善資金融資(マル経融資)件数は実数値 ⑤新規立地企業数(5カ年累計)は実数値 | | | | | | | | | |

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

| | | | |
|-------|--|--|---|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した | <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した | <input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) |
| | <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した | <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | |
| 背景・要因 | ①市内の事業者数はH26年度より28社減であり、ほぼ横ばいである。 ②ビジネスマッチング参加件数は7件で増加傾向にある。 ③新商品開発件数は5件で増加傾向にある。 ④自治金融等の件数は横ばいで、経営の安定する事業者が増加傾向にあると見ることができる。 ⑤新規立地企業は0件である。 | | |

2) 成果目標の達成状況

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った | <input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った | <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった |
| | <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った | |
| 背景・要因 | ①市内の事業者数は目標値1,930件に対し実績値2,184件であり、目標値を上回った。 ②ビジネスマッチング件数は目標値6件に対し実績値7件であり、目標値を上回った。 ③新商品開発件数は目標値2件に対し実績値5件であり、目標値を上回った。 ④自治金融等の件数は目標値120件に対し実績値91件であり、目標値を下回った。 ⑤新規立地企業は目標値1件に対し実績値0件であり、目標値を下回った。 | | |

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

| 施策の成果実績に対する総括 | 今後の課題・方針 |
|--|--|
| ・30年度は企業活動の支援を中心に事業を実施した。 ・貢献度評価の視点から30年度を振り返ると、実績のあった事業は「住宅リフォーム助成事業」と「桜川市地域雇用創造協議会支援事業」であった。 ・「住宅リフォーム助成事業」では44件に対し3,907千円を交付し、75,520千円の経済効果を上げることができた。 ・「桜川市地域雇用創造協議会支援事業」は国の受諾事業として平成29年度から事業を開始。雇用につながるセミナーを実施したり、年2回の就職相談会を実施し、20名の雇用を生み出すことができた。 | ・引き続き企業活動の支援に取り組み、ビジネスマッチング等による企業の販路拡大と雇用の創出を進めていく。 ・今年度から新規事業として「特産品開発支援事業」に取り組み、企業による桜川市の土産品づくりを支援しながら、地域の活性化につなげていく。 ・インフラ等の整備に合わせ企業誘致を進めていく。 |